


2023年5月期 第2四半期 決算説明資料

2023年1月



 **室町ケミカル株式会社**
(証券コード：4885)

1. 会社概要

2. 2023年5月期第2四半期 決算概要

3. 業績予想

4. 中期経営計画の取り組み状況・トピックス

5. 参考資料

会社概要



会社名	室町ケミカル株式会社 (MUROMACHI CHEMICALS INC.)
代表者	代表取締役社長 青木 淳一
設立	1947年7月 (創立：1917年1月)
資本金	143,172千円
従業員	197名 (2022年5月末現在)

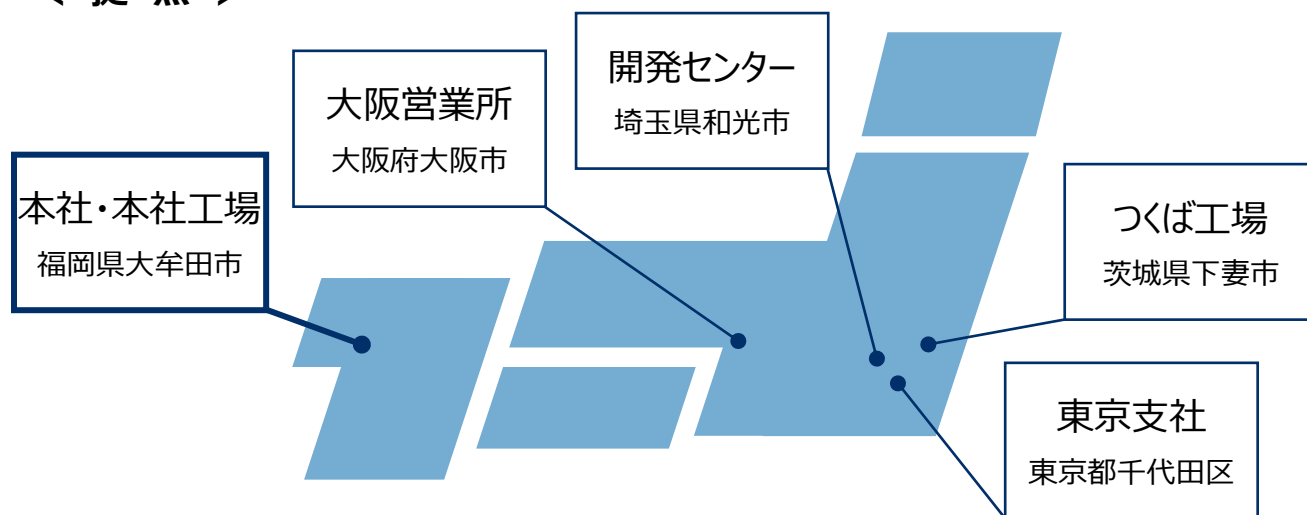


創立当時 (1917年頃)



大牟田市 本社工場

< 拠点 >



「医薬品」「健康食品」「化学品」の3事業

医薬品事業

医薬品原薬（薬の有効成分）の製造・販売



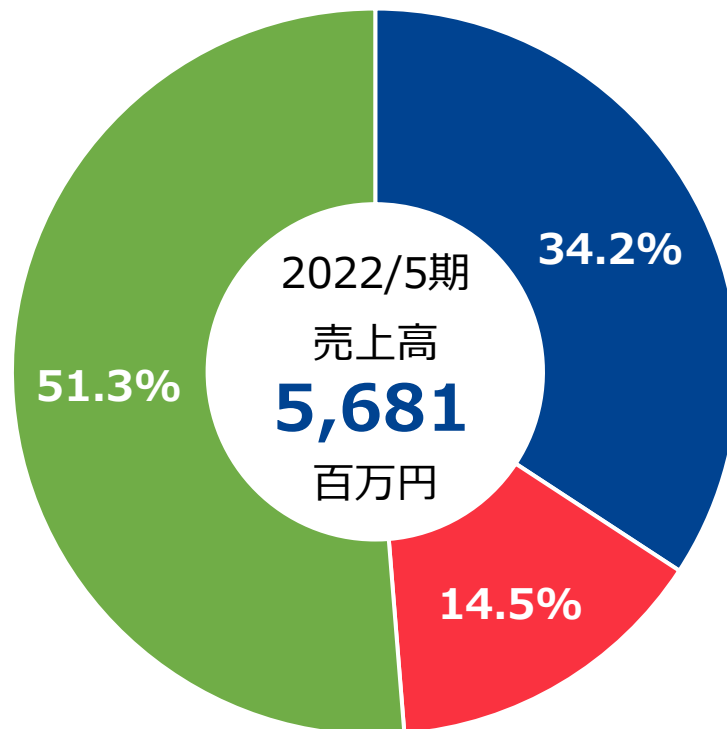
原薬の製造



原薬の精製・異物除去



海外原薬の輸入販売



化学品事業

液体から不純物を取り除く液体処理製品の販売・加工



イオン交換樹脂



分離膜



水処理装置



イオン交換樹脂再生設備

健康食品事業

スティックゼリータイプなどの健康食品の企画・製造



スティックゼリー



Tパウチゼリー

長年培った技術を活かし、お客様の事業をサポートします。

医薬品 事業

メーカー機能と商社機能を併せ持ち、原薬に関わる様々なサービスを提供

品質と価格を満たす原薬を調達できる「商社機能」と医薬品製造の「メーカー機能」を併せ持ち、輸入・製造・加工・分析とトータルサービスを提供します。

健康食品 事業

高度なマスキング技術で、求める“おいしさ”を具現化

健康・美容成分には食べづらい味や匂いのももありますが、それらを包み隠す「マスキング技術」で、食べる健康食品にとって重要な「おいしさ」を追求しています。

化学品 事業

特殊な用途にも対応できる技術で液体処理の課題を解決

排水の処理や薬品の精製など、案件によってカスタマイズが必要な特殊な用途でも、豊富な製品ラインナップと培ってきたノウハウで、最適な製品や処理方法をご提案します。

< パーパス >

「健康」と「環境」をテーマに、社会へ貢献する



< 経営理念 >

私たちは人々との出会いを大切にし、
常に新たなチャレンジと実現化の努力により生きがいと豊かさを提供し、
健全な発展を通して社会に貢献する経営を目指します。

2023年5月期第2四半期 決算概要

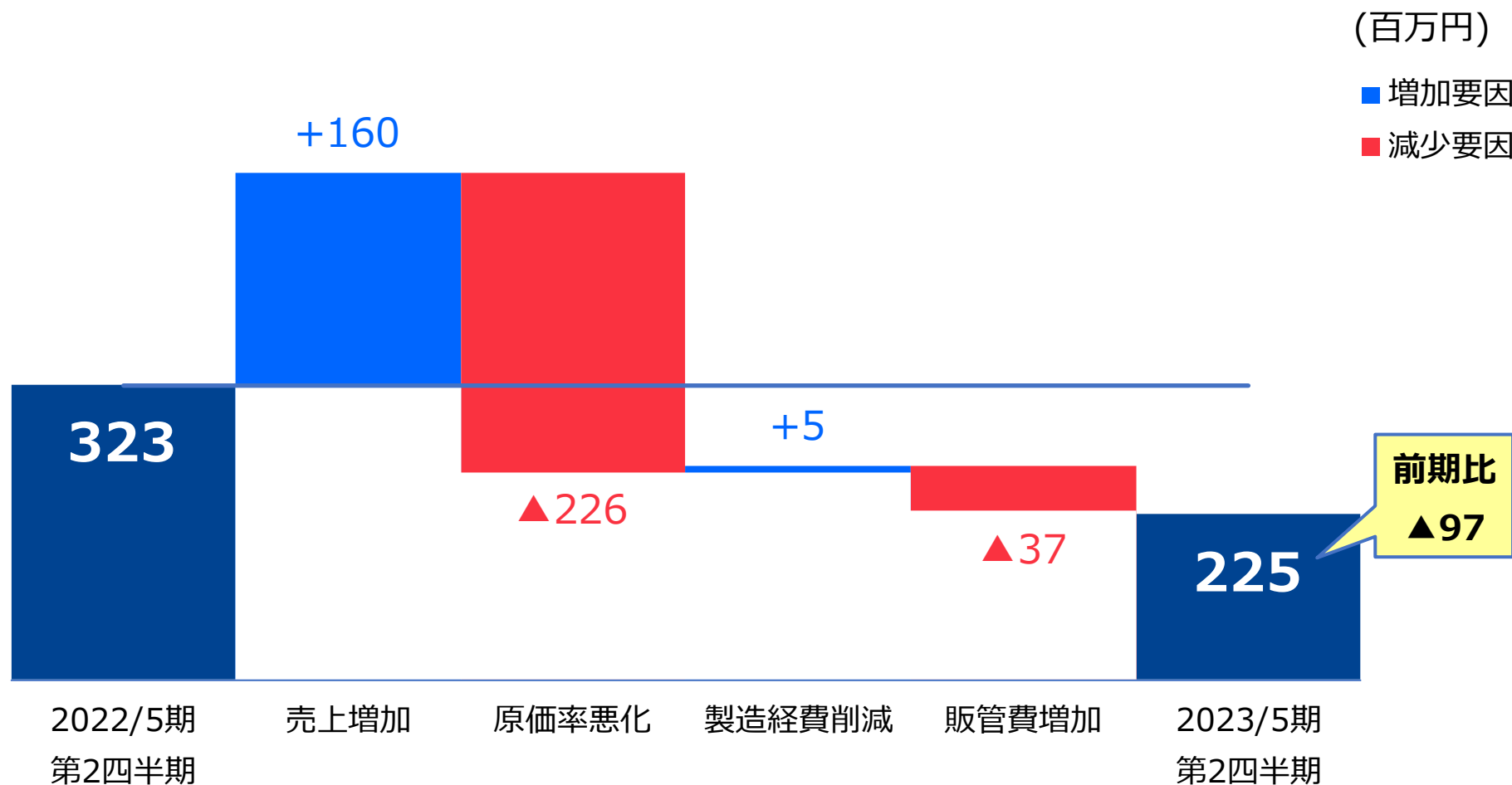


- 輸入原薬の売上の伸びが大きく、増収
- 製品・商品の売上構成変化や原材料費の高騰などにより、原価率は上昇
- 販売費及び一般管理費については、前期比で増加しているものの、当初計画通りで推移

(百万円)

	2022/5期 第2四半期		2023/5期 第2四半期		前年同期比	
		構成比		構成比		増減率
売上高	2,807	100.0%	3,121	100.0%	313	11.2%
売上原価	1,852	66.0%	2,226	71.3%	374	20.2%
売上総利益	955	34.0%	894	28.7%	△60	△6.4%
販売費及び 一般管理費	631	22.5%	668	21.4%	37	5.9%
営業利益	323	11.5%	225	7.2%	△97	△30.3%
経常利益	323	11.5%	207	6.7%	△115	△35.8%
当期純利益	261	9.3%	149	4.8%	△112	△43.0%

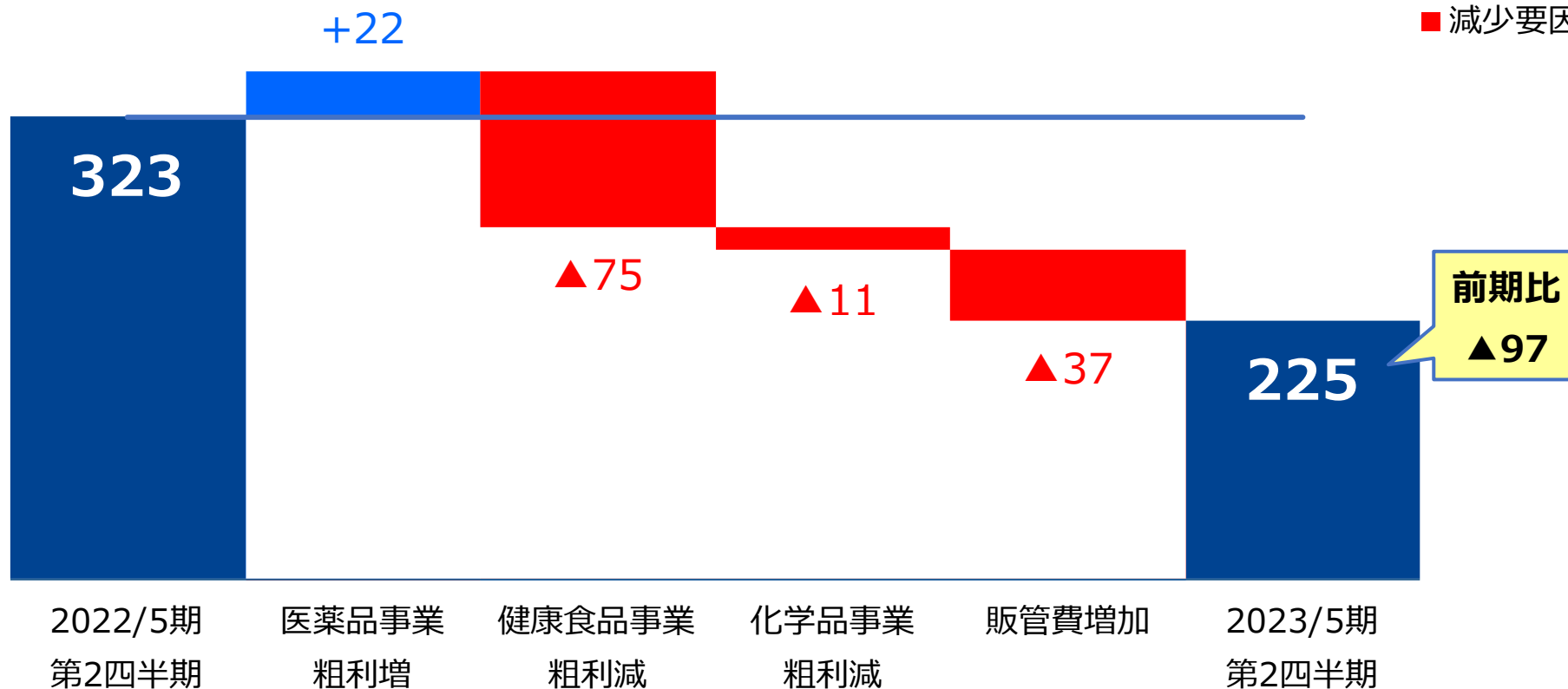
- 前述の要因に加え、健康食品事業での工場稼働率低下により原価率が上昇
- 行動制限の緩和に伴い、旅費交通費、販売戦略費等の費用が増加



- 医薬品事業は売上構成の変化により、売上増に対して利益増は少ない
- 健康食品事業は工場稼働率の低下により原価率が上昇
- 行動制限の緩和に伴い、旅費交通費、販売戦略費等の費用が増加

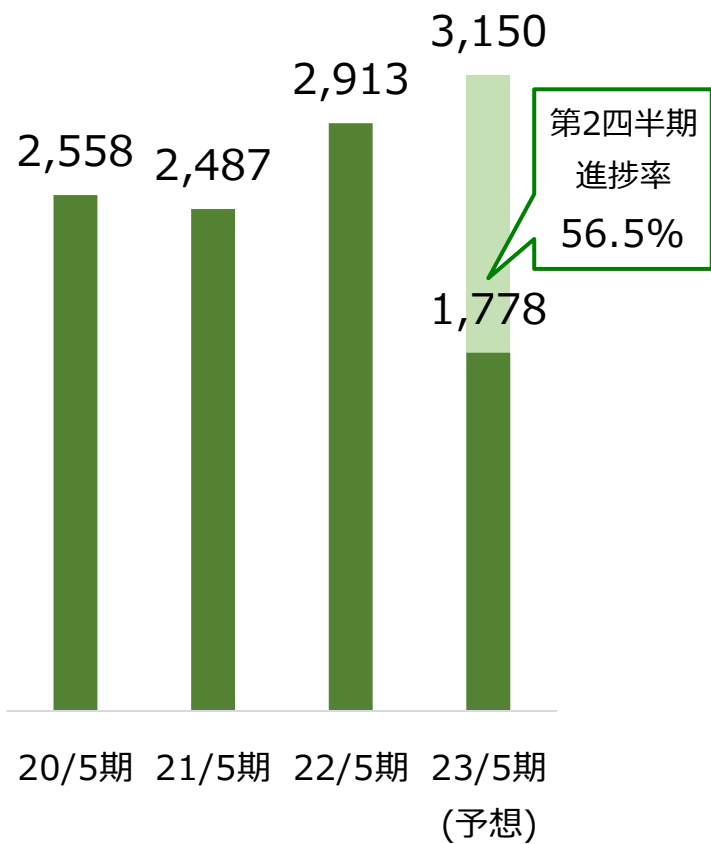
(百万円)

■ 増加要因
■ 減少要因



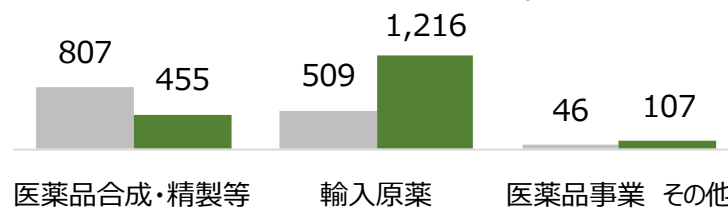
売上高 1,778百万円 (前年同期比) (130.4%)	営業利益 283百万円 (前年同期比) (102.1%)
--	---

■ 売上高推移 (単位：百万円)



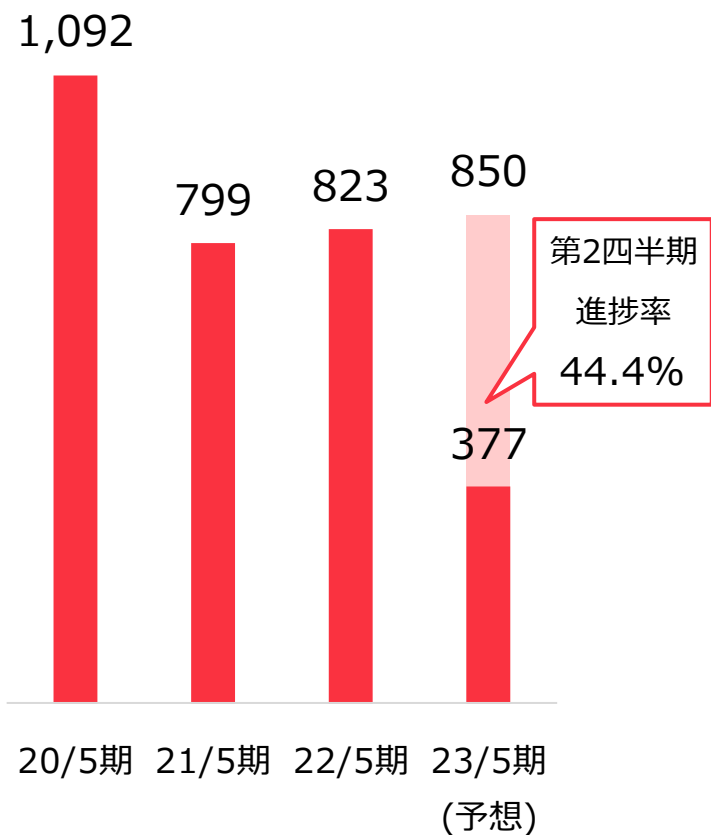
- てんかん、ヘルペスウイルス感染症、アレルギーなどの輸入原薬の販売増加。通期でも受注は堅調に推移する見込み。
- 加工分野では、前年度はスポット案件受注のため、前年比で売上減少。
- 仕入価格の上がった輸入原薬は随時販売価格への転嫁を進めている。

■ 商材別売上高 (単位：百万円・■：前期 ■：今期)



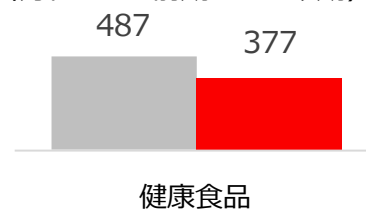
売上高 377百万円 (前年同期比) (77.3%)	営業損失 ▲ 38百万円 (前年同期) (40百万円)
---	--

■ 売上高推移 (単位：百万円)



- 前年度から販売開始したOEM新製品の受注減に加え、想定以上に既存製品の売上が減少。
- 新規案件の上市を進めたが、減少分をカバーできず減収・減益。
受注量を見込める案件を優先的に、引き続き新規案件獲得に注力していく。
- TV通販で販売している自社製品の売上は好調に推移。

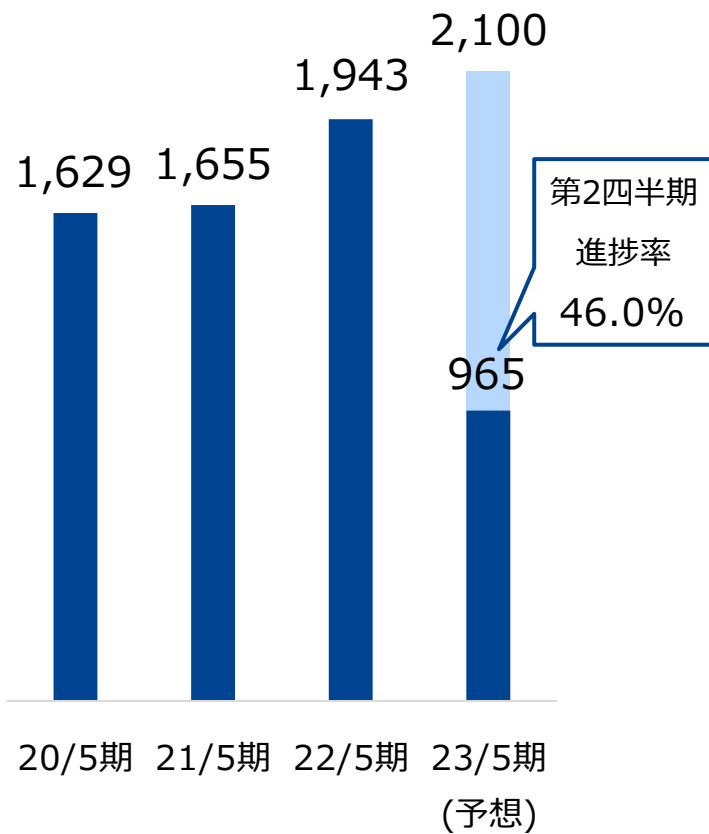
■ 商材別売上高 (単位：百万円・■：前期 ■：今期)



売上高 (前年同期比)
965百万円 (100.9%)

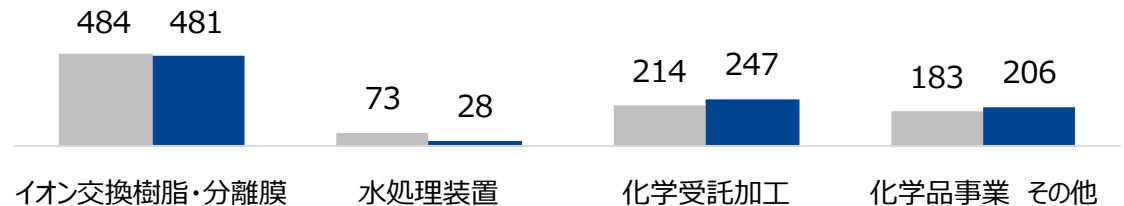
営業損失 (前年同期)
▲ 19百万円 (4百万円)

■ 売上高推移 (単位：百万円)

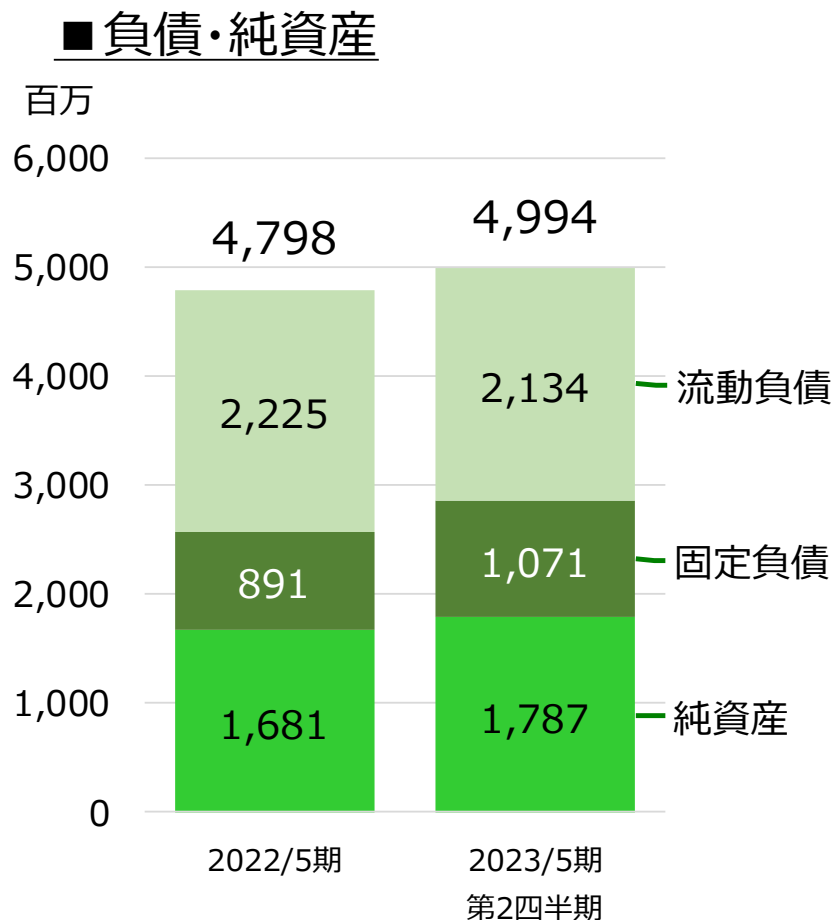
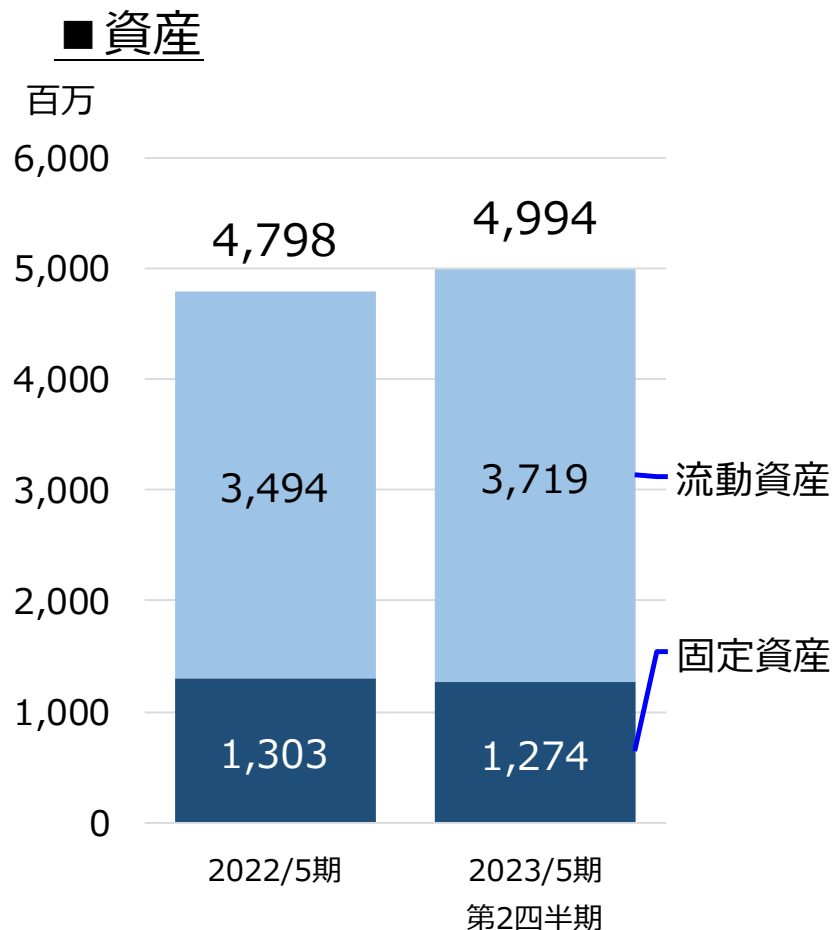


- 装置販売については売上減少となるも（前年度期初は大型装置案件受注のため）、装置メンテナンスなどの売上増加により、前期並みの売上高。
- 需要増が見込まれるイオン交換樹脂、装置に関する開発関係費用を増強したため、営業利益は減少。
- 下期の受注は主力のイオン交換樹脂を中心に堅調に推移する見込み。

■ 商材別売上高 (単位：百万円・■：前期 ■：今期)

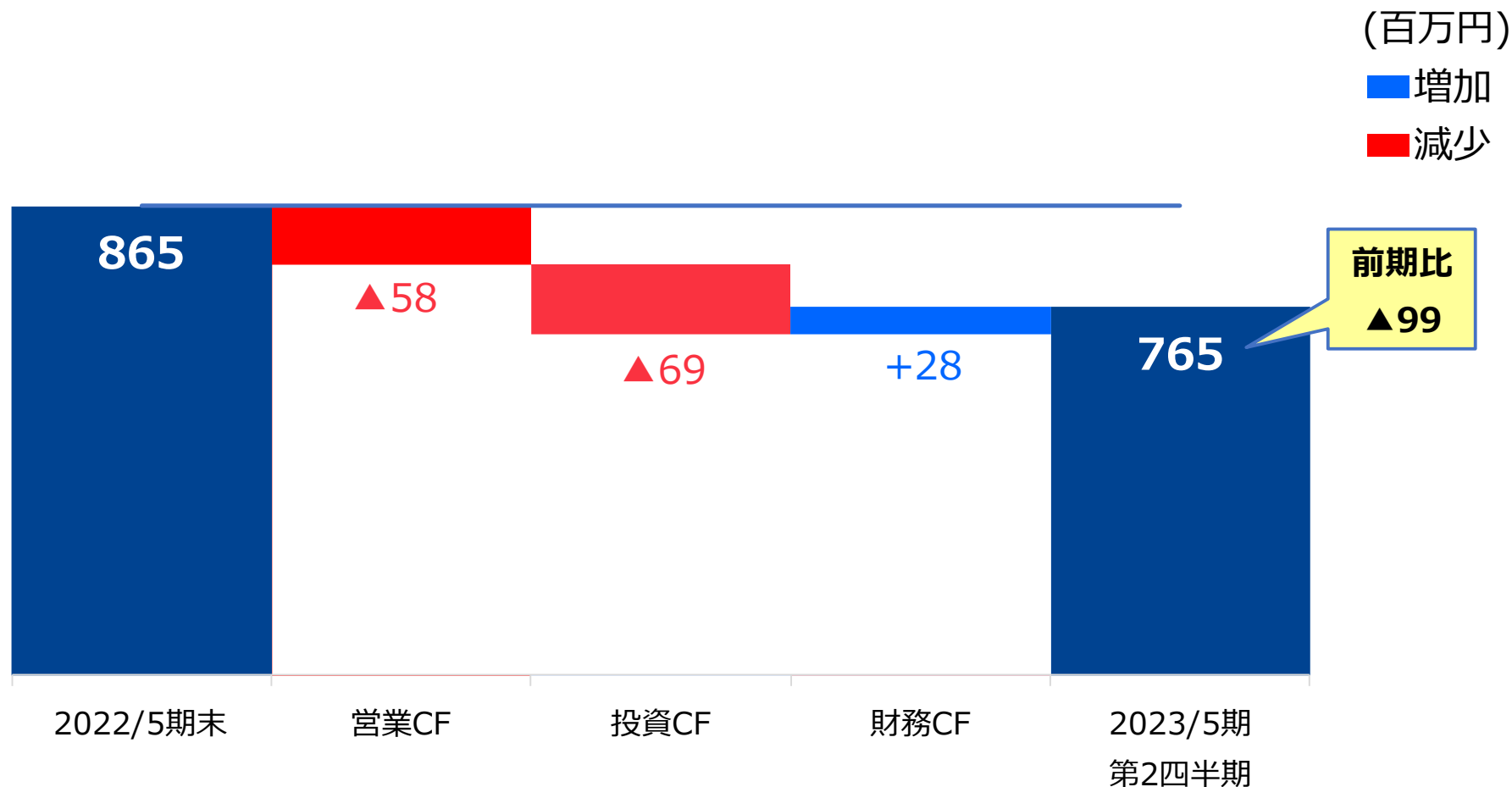


- 棚卸資産、売掛金の増加により、流動資産が増加
- 長期借入金が増加し、短期借入金が減少



自己資本比率 : 35.8% (前期末比 +0.8pt)

- 輸入原薬の受注増・単価上昇により、商品在庫が大きく増加し、売掛金も増加しているため、営業CFが減少
- 基幹システム更新などの設備投資を実施



業績予想



- 上期・下期での売上のずれによって第2四半期の業績予想は修正したものの、通期は概ね当初予想通りに進捗

	2023年5月期 通期	前期比
業績予想の修正	無	
売上高	6,100百万円	+7.4%
営業利益	380百万円	▲13.1%
経常利益	360百万円	▲14.9%
当期純利益	250百万円	▲45.2%
配当金	19.0円	
配当性向	28.4%	

中期経営計画の取り組み状況・トピックス



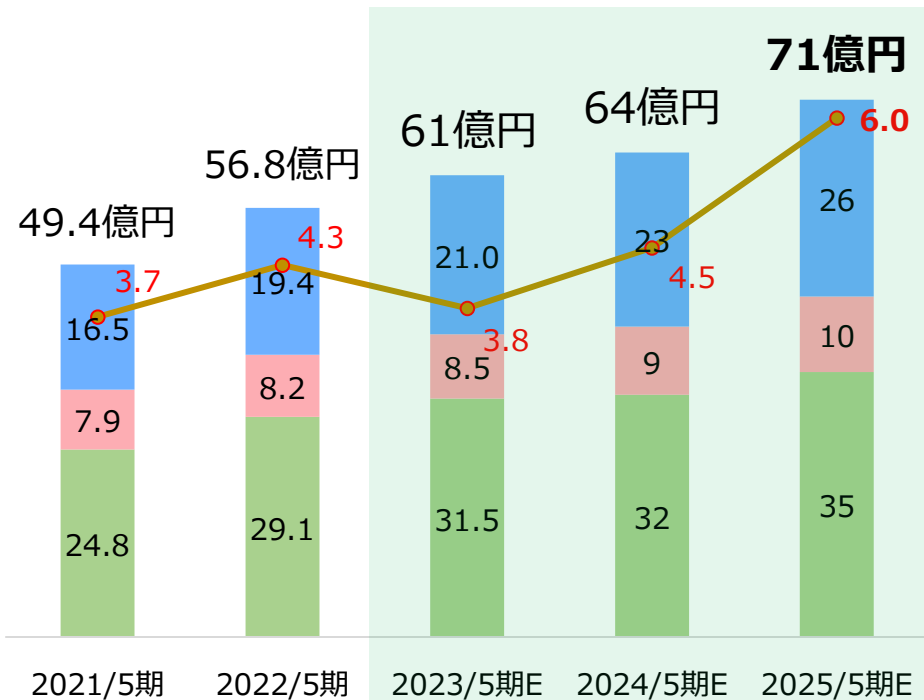
売上高：71億円
(対FY22：+25.0%)

営業利益：6億円
(対FY22：+37.2%)

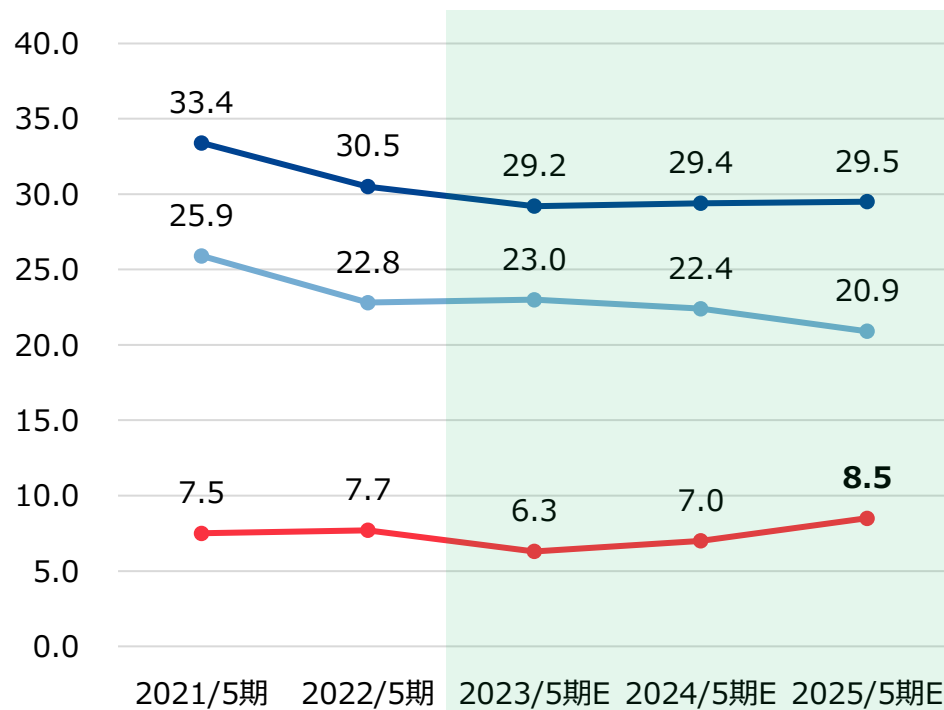
営業利益率：8.5%
(対FY22：+0.8P)

売上総利益率を維持しつつ、売上を伸ばすことで、営業利益増加を図る。

売上高・営業利益 計画（単位：億円）



各利益率 計画（単位：%）



■ 医薬品 売上高 ■ 健康食品 売上高 ■ 化学品 売上高 ● 営業利益

● 売上総利益率 ● 販管費率 ● 営業利益率

（医薬品）

- 輸入原薬の**横展開によるシェア拡大**
- **特異技術**による自社新製品の立上げ
- 治験薬の受託合成による**新薬開発サポート**
- 多拠点(欧州～東アジア)からの**調達ネットワーク構築**
- 新規海外調達先の**日本品質基準への対応サポート**

（化学品）

- 海外イオン交換樹脂メーカーとの**共同開発品の拡販**
 - 火力・原発向け**高架橋度イオン交換樹脂**
 - 半導体関連向け**高純度イオン交換樹脂**
- **競合の少ない特殊な液体処理**でのニーズ取込み

（健康食品）

- **通販業者向けODM製品**の拡販
- **原材料メーカーとの協業**による顧客獲得
- **機能性表示に対応**した製品の企画・提案
- **高齢者向け製品**への応用加速
- 容量増に対応できる『**Tパウチ・ショット**』の拡販

（生産・品質・管理）

- 効率的な工場運営
 - 新規開発案件立ち上げに伴う製造ラインの最適化
 - 生産量増加に伴うインフラ及び物流戦略の再構築
 - 原価低減の取り組み
- 法令遵守体制の継続
- 抜け漏れのない品質管理体制の維持・強化
- より強固な文書管理体制の構築
- 人材の育成、職場環境の改善、従業員満足度の向上

	戦略	状況
医薬品	原薬の国内シェア拡大	輸入原薬既存2製品を新規顧客へ販売開始。他2製品が採用に向けて評価中。8品目でGE市場のトップシェアを獲得。
	受託合成による新薬開発サポート	3製品を開発中。内、1製品は来期に本社工場での生産に向け設備投資を開始した。
	調達ネットワーク構築	海外展示会（CPhIフランクフルト）での面談により、新規4製品の開発を開始。
健康食品	ODM製品の拡販・顧客獲得	上期に15品目の新製品を受注・製造。内、原料メーカーとの協業により3案件を獲得。
	機能性表示製品の企画・提案	紫外線対策を謳える機能性表示食品対応のゼリーの開発が完了し、申請に向けて準備中。
	高齢者向け製品	経口栄養食の販売を行っている企業4社へゼリー製品の提案中。
化学品	共同開発品の拡販	【高架橋度イオン交換樹脂】樹脂特性を示すデータ取得完了。複数の火力発電所に提案を進めており、採用に向けてまずは管理レベルの低い系統において実証実験を開始。 【高純度イオン交換樹脂】半導体用など精製薬品を製造するメーカーへ提案。各種薬品の精製データを採取中、提案先をさらに増やす。
生・品・管	効率的な工場運営	健康食品ゼリー工場において一部工程の自動化を実施。
	品質管理体制の維持・強化	文書・記録の管理強化のため文書管理システムの導入をすすめている。
	人材育成、職場環境、従業員満足度	製造部門強化のため、レベルアップ研修を実施。

医薬品事業

海外調達先の日本品質基準への対応サポート

来期以降の上市を目指し、量産化へ向けた製造開発中のインド3社と、品質基準を達成する技術についてWeb会議での協議を継続中。今期中に現地工場を訪問し指導予定。

医薬品事業

特異技術による自社新製品の立上げ

4製品の開発に着手し、3製品の製法開発が完了。
顧客需要に応じて、量産化検討を開始予定。

新たな製法については、積極的に特許出願を継続中。（上期の進捗は以下の通り）

公開：1 案件（ヒスタミンの新規製法、KMバイオロジクス(株)と共願）

公開前：2 案件（化学品事業部との共同開発）

出願準備中：2 案件

健康食品事業

『Tパウチ・ショット』の拡販

森永製菓向け「パッションフルーツLaboゼリー」が10月に上市され、販売中。
上期に他3製品を上市、更なる新製品の上市に向けて活動中。



化学品事業

情報発信の強化

様々な業界へ向けた情報発信を強化。

- ・Webサイト「イオン交換樹脂総合情報センター」の運営開始。
- ・展示会出展、講演・学会発表など今期26回を計画し、多業種へのPRを実施。

このような活動により、未知の業界や用途への足掛かりができてきており、新たな顧客・案件の獲得や新たな用途開発へつながることが期待される。



化学品事業

イオン交換樹脂の新規開発を開始

・耐熱性カチオン樹脂

化学合成反応で一般的に使用されている触媒として使用可能なイオン交換樹脂を開発中。耐熱性を付与するなど、様々な合成条件に対応出来るイオン交換樹脂を目指している。個体触媒を使うことで合成工程を簡略化することも可能で、液体触媒にない優位性を活かして、化学合成を行う企業へ広く使って貰えるべく製品開発に取り組んでいる。

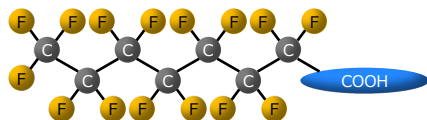
・有機フッ素化合物（PFAS）除去用 イオン交換樹脂

近年、世界的にも規制が強化されており、日本でも水道水質基準の水質管理目標に設定※されるなど、人体への影響が懸念されるPFASの除去に適したイオン交換樹脂の開発に着手。上下水道関連に加え、建設業界などへの販売を見据える。

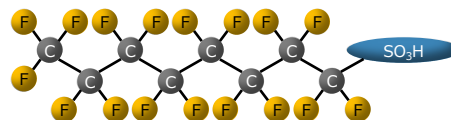
※水道法第4条「水質に関する省令」（平成15年5月30日厚生労働省令第101号）より

- **有機フッ素化合物とは、炭素とフッ素等が結合した数千種類に及ぶ有機化合物の総称。**

■ 代表的な有機フッ素化合物(PFAS)

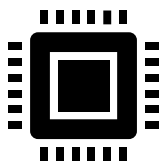


ペルフルオロオクタン酸 (PFOA)



ペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOS)

- **撥水・撥油性、耐熱・耐薬品性などの有用な性質があり、工業用途から家庭用品まで幅広い分野の製品に使用されている。**



半導体製造



泡消火薬剤



フライパンのコーティング



化粧品



耐油・防水加工された
包み紙や容器

- **健康への影響が懸念されているが、非常に分解されづらく、PFASによる環境汚染が問題となっている。**



PFOA



PFOS



分解されずに
長期間蓄積されていく

- 水質基準に関する省令による
暫定目標値

PFOAとPFOSの合計値

50ng/L

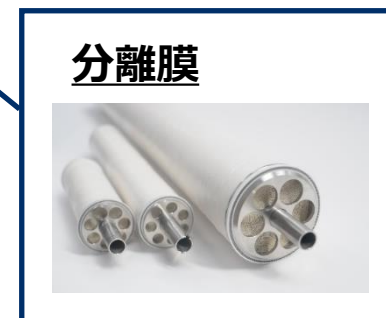
※ 1ngは1gの10億分の1

● 2022年9月より、5社※共同開発のバイオディーゼル燃料精製装置の販売を開始



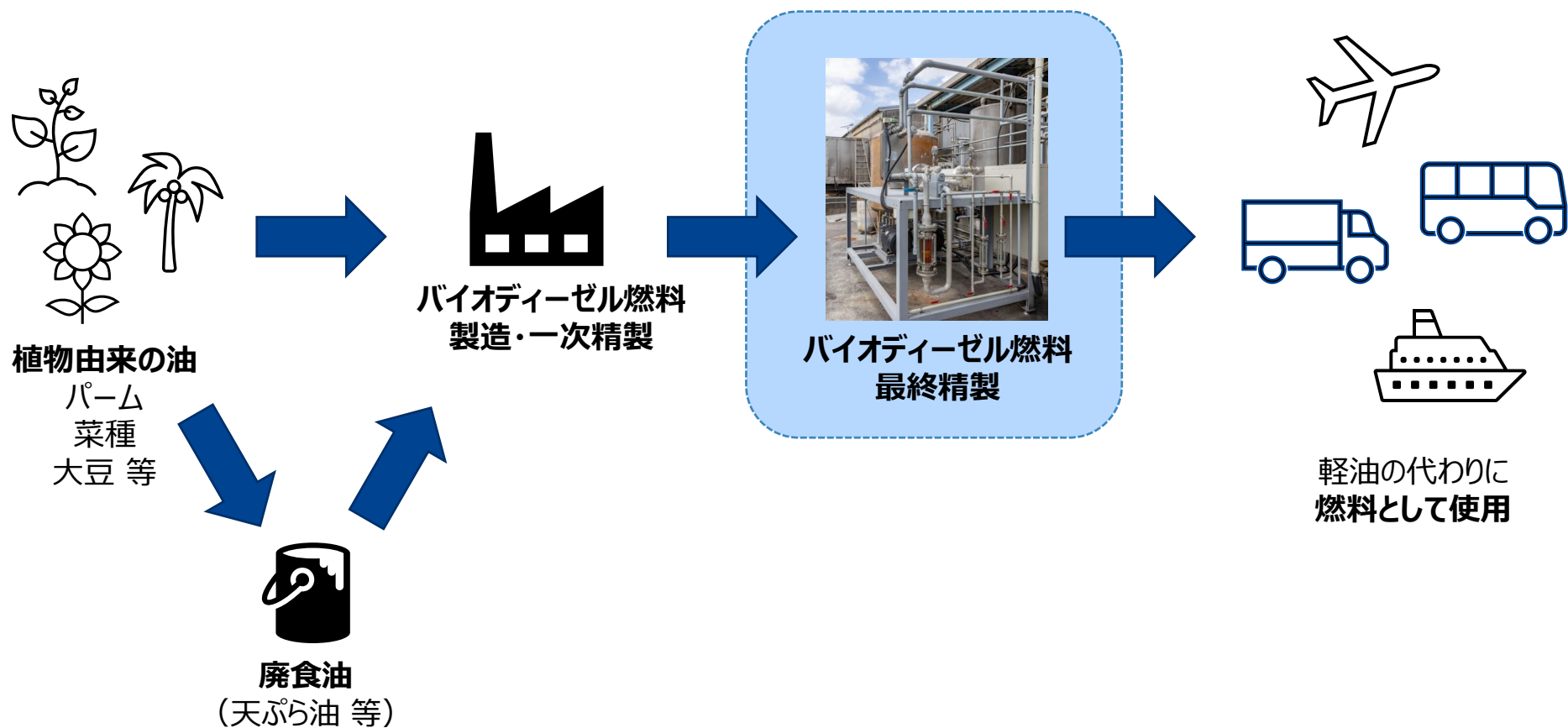
従来技術と新技術の違い

	従来技術（蒸留法）	当社開発技術（分離膜法）
高純度	エステル分：94%	エステル分：99%
高収率	75%	90%
安全	液温：200～300℃	液温：50℃以下
安価	加熱するためのエネルギーコストが発生	加熱する必要なし



※ 水光技研株式会社、有限会社健製作所、RITA株式会社、ポリプラ・エボニック株式会社、当社

- 運輸業界中心に、バイオディーゼル燃料を製造する企業など数十件の引き合いをいただき具体的な商談へとすすめている





<https://www.muro-chem.co.jp/>

本資料に関するお問い合わせ先
室町ケミカル株式会社 経営企画室
TEL : 0944-41-2131
FAX : 0944-41-2133

＜本資料取扱上の注意点＞

本資料に記載されている将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、経営環境の変化等により、予告なしに変更される可能性があります。また、実際の業績等は様々な要因により変動する可能性があります。

掲載の内容については未監査の数値も含まれており、確度を保証するものではありません。また、掲載された情報やその誤りについて、その理由に関わらず、当社は一切責任を負うものではありません。

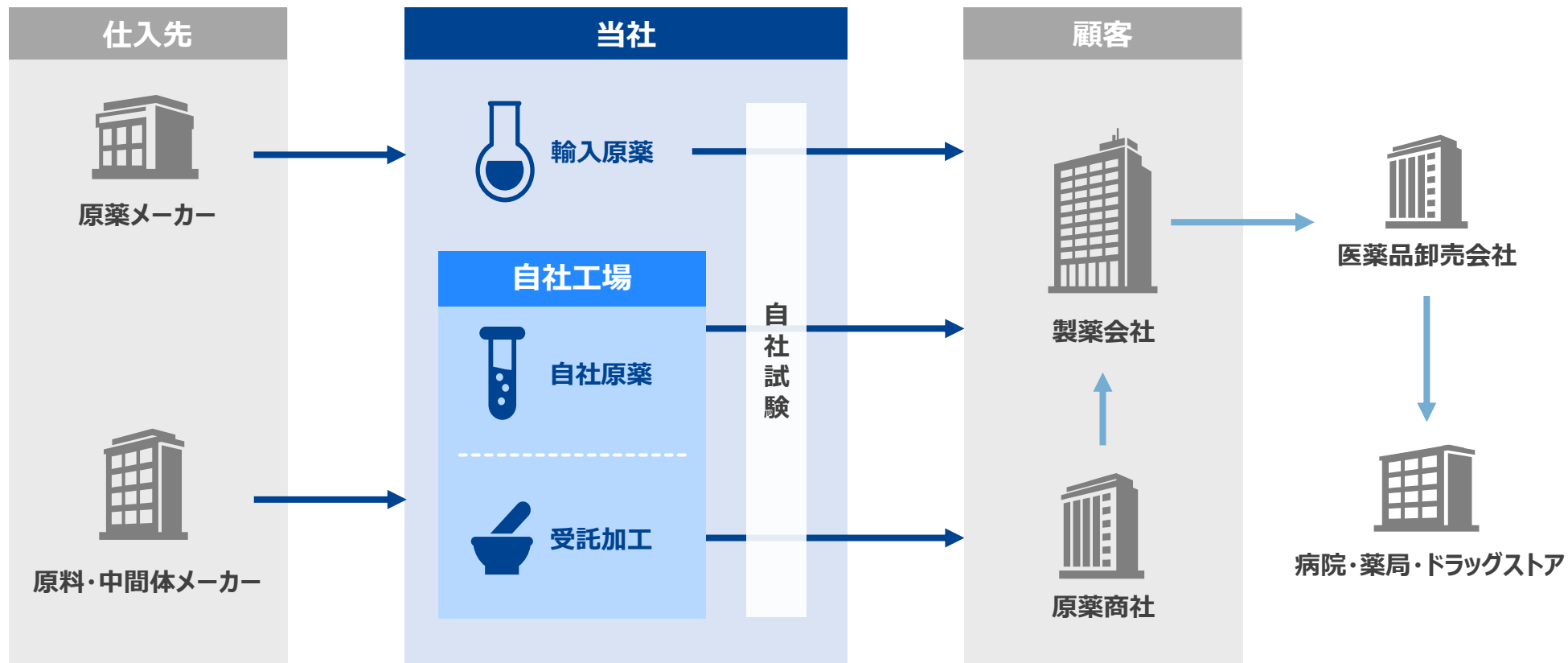
本資料は投資家の皆様当社をご理解いただくことを目的として当社が作成したものであり、投資勧誘を目的にしたものではありません。投資に関するご決定は皆様ご自身のご判断で行うようお願いいたします。

参考資料



- 明治期** 福岡県須恵町において「須恵目薬」の製造・販売開始
- 1917年** 福岡県直方市に「大洋製薬合資会社」を設立
- 1924年** 福岡市東区に移転『天洋社』と改称
- 1938年** 福岡市南区に移転。
- 1944年** 戦時企業整備（県内の製薬会社を1社にする制度）により会社を解散し、一時廃業
- 1947年** 戦後、「鉄ペプトン製薬有限会社」として再設立
- 1948年** 販売会社として、「株式会社天洋社」を再設立
- 1950年** 「株式会社天洋社」を「鉄ペプトン製薬有限会社」に合併し、社名を「天洋社薬品有限会社」とする。
- 1952年** 社名を「天洋社薬品工業株式会社」と改称
- 1971年** ムロマチグループに参入
- 1996年** 福岡県大牟田市に本社工場を新築移転
- 1998年** 『室町ケミカル株式会社』に社名変更
- 1999年** 医薬品第二工場を新設 ISO9001認証取得
- 2003年** 本社隣接地に物流倉庫新設
- 2005年** 『天洋社薬品株式会社』設立 東京支店開設
- 2006年** 健康食品製造工場操業開始
表面処理工場操業開始
- 2009年** 新事務所竣工
- 2010年** コンパウンド工場操業開始 表面処理事業より撤退
- 2010年** 室町(上海)商貿有限公司設立
- 2011年** 第三医薬品工場新設 尿素水工場操業開始
ムロマチテクノス株式会社より、つくば工場譲受
- 2013年** 新勝立倉庫竣工
東京都千代田区神田駿河台に東京支店を移転
- 2014年** 『東進ケミカル株式会社』の全株式を取得し
100%子会社化
ムロマチテクノス株式会社を吸収合併
- 2016年** つくば工場にインキ接着剤工場を新設
機能性樹脂コンパウンド事業より撤退
大牟田本社に医薬品ゼリー工場を新設
- 2017年** 東進ケミカル株式会社を吸収合併
大牟田本社に医薬品合成工場を新設
- 2018年** 天洋社薬品株式会社を吸収合併
- 2019年** 埼玉工場を閉鎖
- 2020年** 埼玉県和光市に埼玉開発センターを開設
- 2021年** 東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)市場に上場

病院や薬局などで提供される医薬品は、有効成分となる「原薬」と様々な添加剤で出来ています。当社の医薬品事業では、この「原薬」の製造・販売を行っています。現在当社が取り扱っている原薬は、ジェネリック医薬品*・医療用医薬品*向けが主となっております。



* ジェネリック医薬品(後発医薬品)

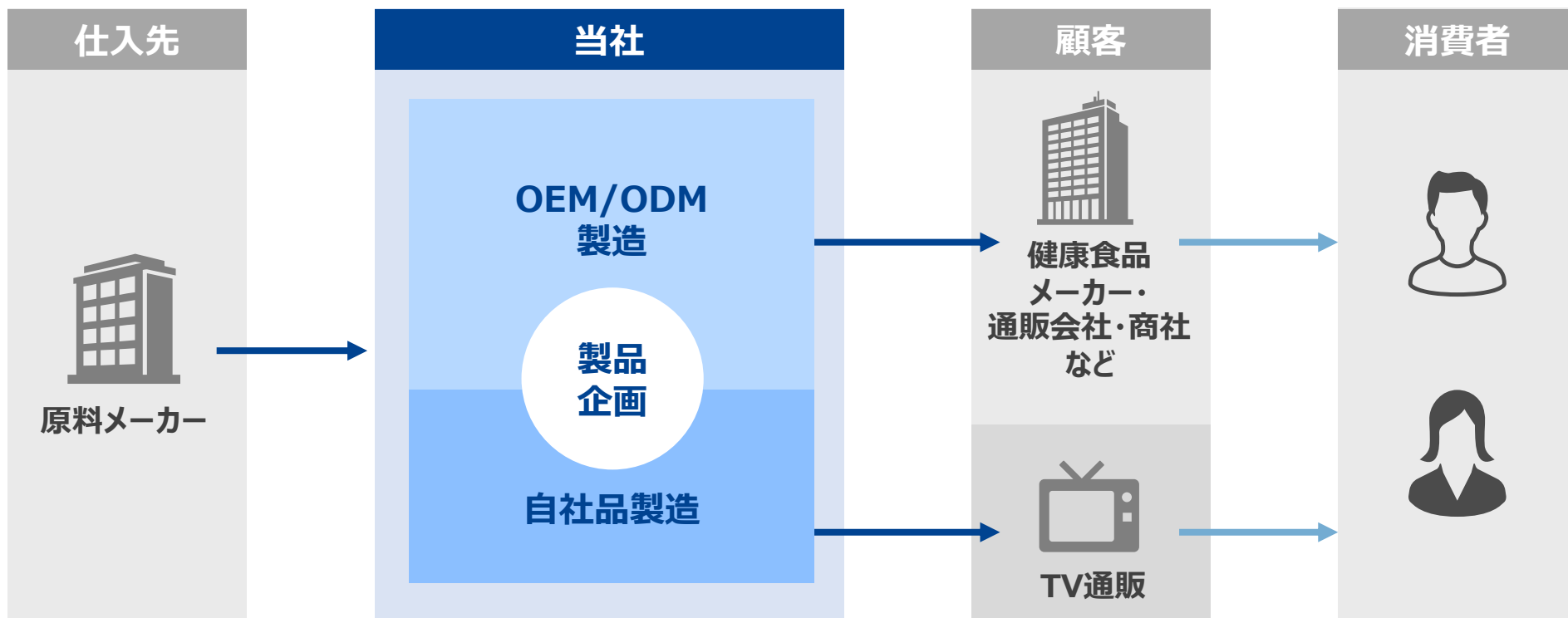
・・・新薬(先発医薬品)の特許が切れた後、同じ有効成分を使って製造される薬。新薬に比べ開発費用が抑えられるため低価格で提供される。

* 医療用医薬品(医家向け医薬品)

・・・病院で医師の診断をもとに処方してもらう薬のこと。対して、薬局等で購入できる薬を一般用医薬品(OTC薬品、市販薬)という。

健康食品には、錠剤、カプセル、粉体、ドリンクなど様々な形態がありますが、当社は、「スティックゼリー」タイプの健康食品の企画・製造を行っています。現在は、OEM・ODM*が主となっており、売上の8割を占めています。

スティックゼリーの健康食品は、おやつ感覚でおいしく、水が無くても摂取できる、携帯しやすい、などの特徴があります。



* ODM (Original Design Manufacturing)

…発注元企業のブランド名で販売される製品の、製造のみを行うOEM (Original Equipment Manufacturing) に対し、ODMは企画や設計、製造までを行う。

液体処理に使用される「イオン交換樹脂」や「分離膜」を取り扱っています。目的に適した製品の提案をするほか、使用に適するよう加工も行います。

様々な業界の製造や開発の現場で使用される純水や軟水の製造、薬品の精製、排水の処理など、活用される場面は多岐にわたります。

他に、接着剤やペーストなど機能材料の加工や販売をおこなっています。

